トレンド

内容

トレードで勝つための技術編 4

（１）トレンドの方向を知る 4

（２）ダウ理論に隠された真実 6

（３）トレンドラインはどう引くのか 23

（４）頂点と底と中指と 28

（５）実際のチャートで見たトレンド分析 43

（６）チャネルライン 50

（７）トレンドのゾーンについて 53

（８）、トレンド初期、中期、後期について 55

（９）、エントリーを考えるのはトレンド初期のゾーンから 61

（１０）、戻りのない相場とは 63

（１１）、FIB23.6%について 68

（１２）、トレンド初期の判断まとめ 75

【著作権について】このレポートは著作権法で保護されている著作物です。

下記の点にご注意戴きご利用下さい。

このレポートの著作権は作成者に属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。

このレポートは秘匿性が高いものであるため、著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。

このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

このレポートを利用することにより生じたいかなる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

トレードで勝つための技術編

（１）トレンドの方向を知る

皆さんは、世の中のトレーダーの 70%がトレンドトレーダーと言われているのをご存知でしょうか？

たくさんの人がトレンドを使っています。

多くの人がトレンドを指針にトレードしているからこそ、トレンドは機能するとも言えるので、トレンドは重要

なものです。そもそもトレンドとは何でしょう？

答えは簡単、トレンドとは相場が動く方向ということです。今までトレードをしていて、確かな基準がな

く、どっちに相場が動くかわからない・・・。

相場は上がるか下がるかの 2 分の 1 だ・・・、と思ってトレードをしていたなら、

相場が動く方向を知る方法があれば、知りたいと思いませんか？

当然、絶対に当たるというものはありませんが、トレンドの予測ができれば、あなたのトレードパフォーマンスはかなり高まると思います。

では、早速、見ていきましょう。

（２）ダウ理論に隠された真実

すでにご存じの方もいらっしゃると思いますが、ダウ理論は、チャールズ・Ｈ・ダウという人が考え出したトレンド分析の方法で、

主要な高値・安値が、ともに切り上がっていたらアップトレンド、主要な高値・安値が、ともに切り下がっていたらダウントレンド、

というものです。

これは数値化できるものなら何でも当てはめることができますが、スーパーで売っているモノでも言えます。

モノによりますが、売れやすい時期と売れにくい時期があります。スイカが好きなのでスイカで例えると、去年の夏の売り上げよりも、今年の夏の売り上げが上がっていて、去年の冬の売り上げよりも、今年の冬の売り上げが上がっている。

こういう状態になっていたら、

売れやすい夏の時期と売れにくい冬の時期の両方とも、去年と比較して売り上げが上がっていたら、

そのスーパーの景気は上がっている。

と判断できますよね。

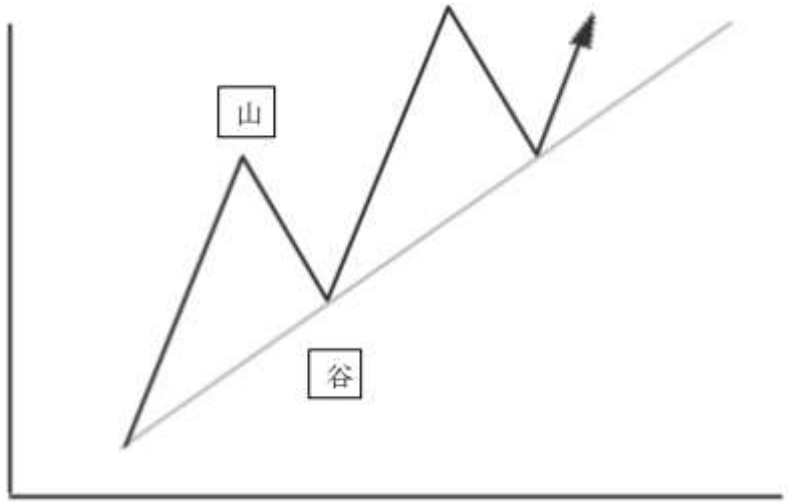
最高の時期と最低の時期の両方ともが上がっていたらアップトレンド、

逆に、最高の時期と最低の時期の両方ともが下がっていたらダウントレンド、ということになります。

これは相場にも当てはまります。

相場は普通、直線的に動くということはなく、ジグザグに動きます。

では、どんな状態か、簡単な図で見てみましょう。



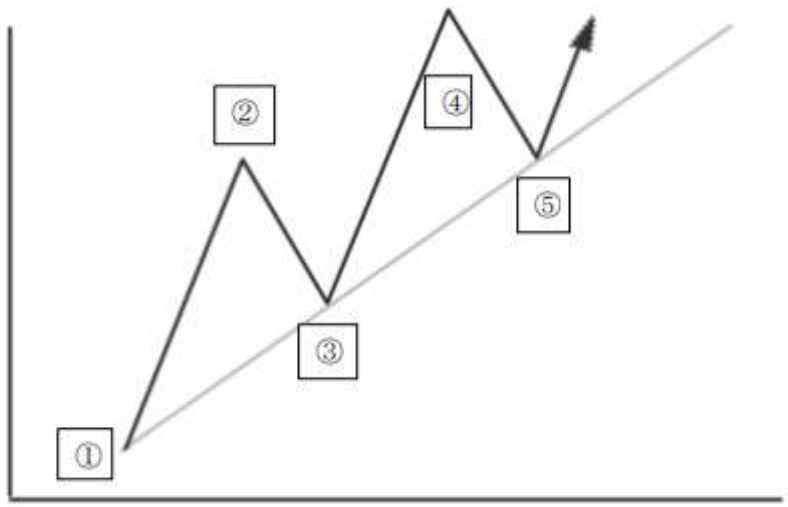
相場は上昇し、山の頂点を作ると下落し、谷底を作ります。

それを継続して作っていくわけですが、

その山の頂点と谷の底が右肩上がりならアップトレンドです。

この頂点と底の形成していく方向がマーケットのトレンドなのです。

上で書いたのは、主要な高値と主要な安値が切り上がっている状態ですが、わかりやすく、主要な高値と安値に番号を振ってみました。以下の図のとおりです。

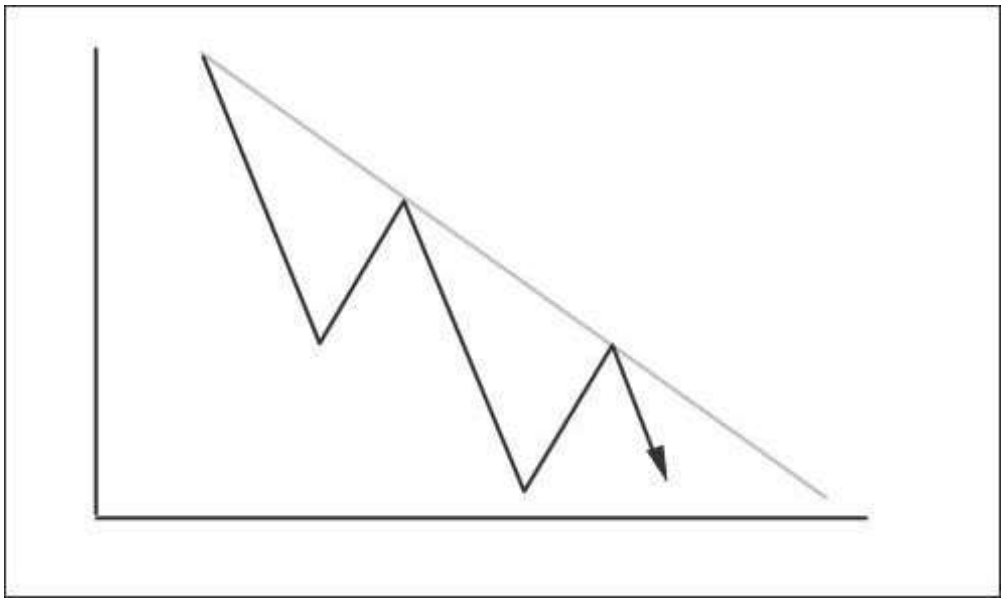


安値①から③、⑤へと上がっているのが見てわかると思います。

高値②から④へと上がっているのが同じようにわかると思います。

このように、安値・高値ともに上がっている状態を、アップトレンドと判断することができます。

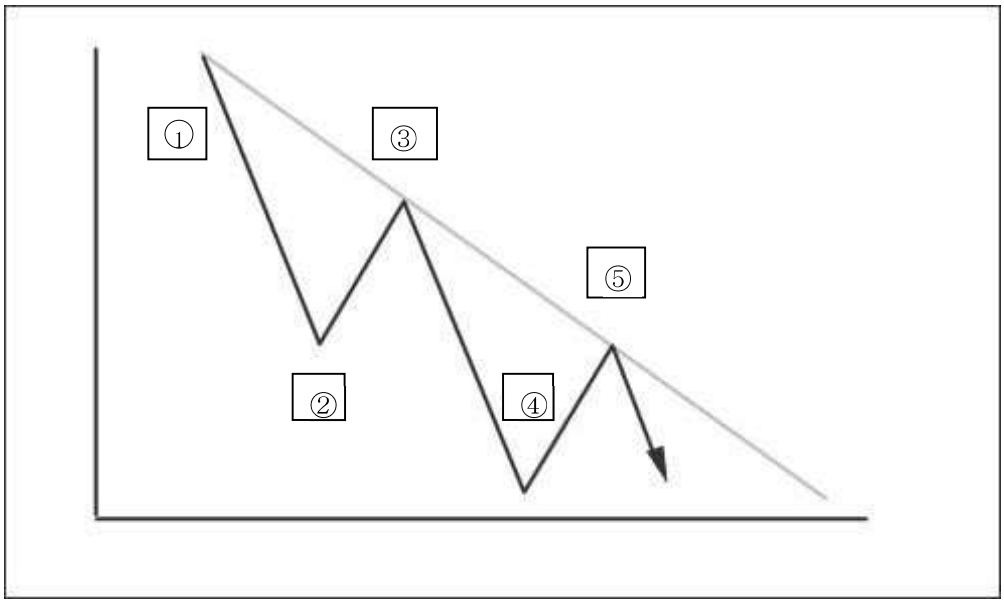
あなたの身近な数値化できるものなら何でもいいので、当てはめてみるとわかると思います。では、次の図を見てみましょう。



先ほどの動きと違い、今度は山の頂点と谷底が右肩下がりに動いています。

この時がダウントレンドになります。

同じように番号を振ってみます。



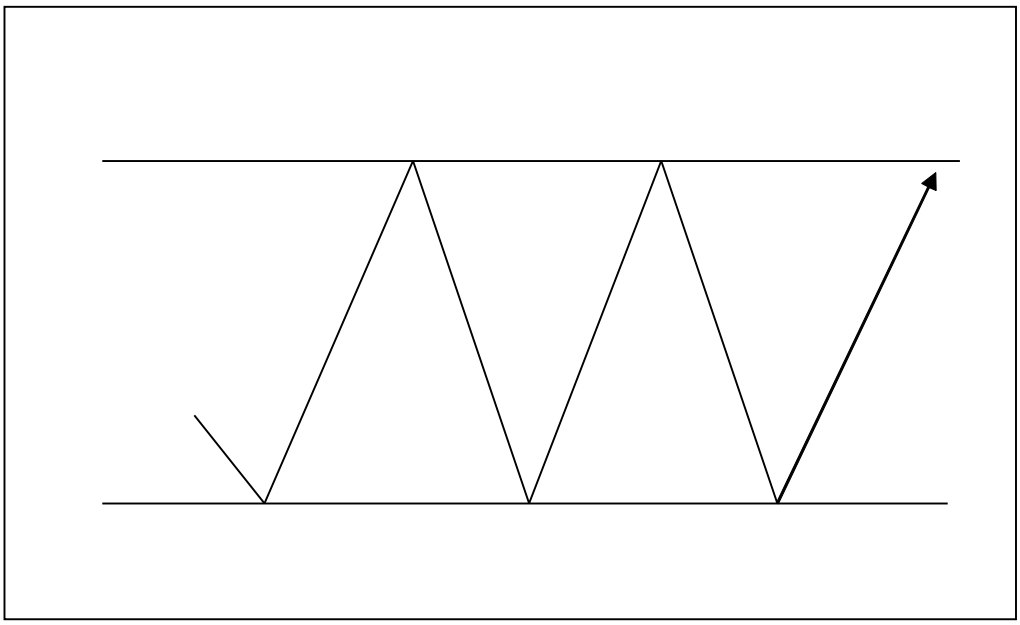
アップトレンドの図で番号を振った時のように見ると、

高値①から③、⑤へと下がっていて、安値②から④へと下がっています。

高値、安値ともに右肩下がりなので、ダウントレンドと判断することができます。

こういう風に、きれいに上下している状態ではトレンドがはっきりとわかりやすい相場状況と言えます。

では、次の図ではどうでしょう。



今までのものとは違って、今度は山の頂点と谷底が水平に移動しています。

今までのものとは違って、今度は山の頂点と谷底が水平に移動しています。

こういう状態では、トレンドがなく横ばいと判断できます。

トレンドには上昇トレンド（アップトレンド）、下降トレンド（ダウントレンド）、横ばい（レンジ）の 3 つがあり、少なくとも数回に一度、水平な動きをします。上昇相場の時には買い、下降相場の時には売るのが良く、横ばいの相場では何もしないのが一番です。

トレンドを話す上でこれだけは知っておかなければならない・・・。

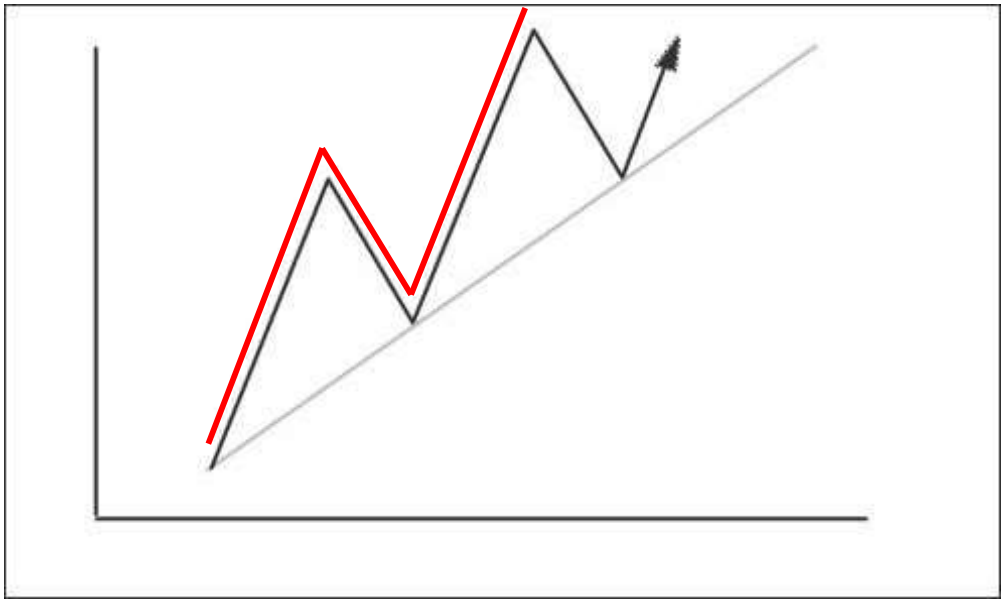
それがダウ理論です。

更にダウ理論でトレンドを見る時のコツがあるんですが、

相場に隠された「N」を見つける

というものです。

図で見てみましょう。



赤字で書いてみましたが、見えましたか？英語の「N」になっています。

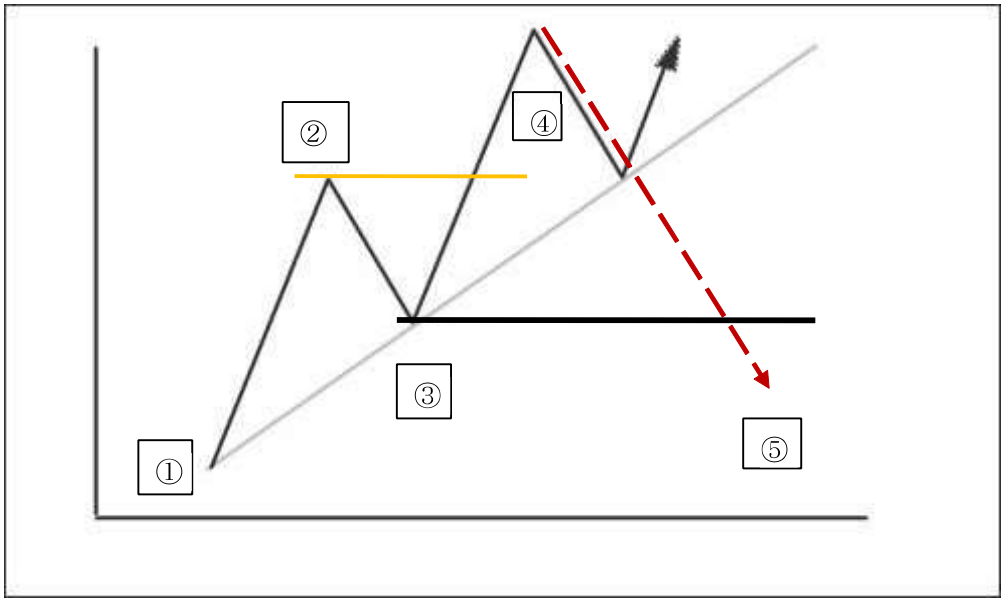
アップトレンドでは N、ダウントレンドでは逆 N、

が相場に現れてきます。

そして、その N、もしくは逆 N が崩れる時がトレンドがなくなる時、エントリーしていたら、損切りされる時とも

言えます。

見てみましょう。



アップトレンドになったと判断できるのが、

②の高値を超えた時に「N」が完成するので、②の高値を超えたところでエントリーしたとします。

そして当たり前ですが、ストップを入れるとします。

あなたなら、どこに入れますか？

答えは③の下です。

なぜか？

⑤が③の下を下回ってきたら、

「安値が切り下がった状態」になってしまいます。

しかし、④の高値は②の高値よりも切り上がっています。

・・・、何かおかしくないですか？

高値が切り上がって、安値が切り下がっている？？

再度、おさらいです。

アップトレンドの定義は、主要な高値と主要な安値が、ともに切り上がっていることでしたよね？

ということは、アップトレンドではないようです。

ではダウントレンドの定義は？

主要な高値と主要な安値が、ともに切り下がっていることでしたよね。

では、これはどういうことなんでしょうか？

安値が切り下がって、高値が切り上がっている・・・。

こういう特徴もありますが、

トレンドレス、つまり、トレンドがない状態と判断していいと思います。

アップトレンドの時には買い、ダウントレンドの時には売りが良く、横ばい相場では何もしないのがいいです。

そして、この状態もトレンドがない状態と判断したなら、何もしない・・・、

というのがベターだと判断します。

トレンドトレードなら、トレンドがない時には相場にいてはいけないので、図の③の下にストップを置くのが理にかなっているというわけです。

いかがですか？

こうやって図で見れば簡単ですよね。

では、次は実際の相場を取り上げてみてみましょう。

・・・、どうでしょうか？

ダウ理論が見えてきますか？

比較的わかりやすいかなと思った相場をピックアップしてみました。さて、あなたならどこを主要な高値、主要な安値と見て、ダウ理論を見ますか？

私ならここ、と思うところに数字を入れてみます。

私が思う主要な高値と主要な安値に番号を振ってみました。

こう見ると、安値①から③、⑤へと下がっていて、

高値②から④へと下がっているので、

ダウントレンド

と見ることができます。

どんな相場でも、主要な高値と主要な安値の判断基準があれば、トレンド判断に迷うことはありません。

判断基準があってトレンド判断に迷う時、

それは相場のトレンドがわからないということなので、トレードすべき相場ではないと判断することができます。

以上のように、ダウ理論はトレンド分析の基本ですし、そんなに難しくありません。

見る人と相場によって判断の差は出ますが、トレンドがない時、トレンドがわからない時は、トレードすべきではありません。

上記の図で、わかりやすいと感じた相場をピックアップしてダウントレンドと判断しましたが、

いや、私はわかりにくい・・・、

という方もいらっしゃるでしょう。

それは、トレードしなければいいんだよ、

というサインです。

（３） トレンドラインはどう引くのか

続いて、トレンド判断の材料としてよく使われるトレンドラインについてです。

トレンドラインについてはご存知でしょうか？

平たく言うと、ダウ理論が当てはまっているところに線を引いてみた、

つまり、

・安値が切り上がっていたら、その安値の底に沿ってトレンドラインを引く

・高値が切り下がっていたら、その高値の頂点に沿ってトレンドラインを引く

ということです。

トレンドラインの引き方は至極簡単です。

簡単だからこそ、多くの人がトレンドラインを参考にトレードしているということです。

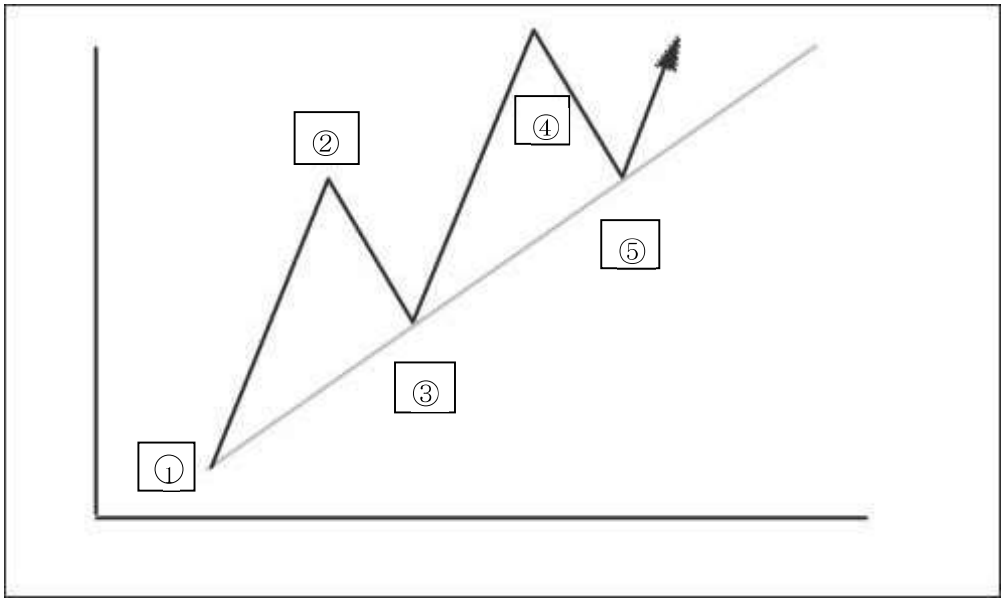
トレンドラインについては、たくさんの本で説明されていますが、

結構難しく書いているものが多いです。

例えば、

「下図の③から上昇し始めているのがわかると思います。ここで初めて谷が形成されたことを確認でき、①と③を結ぶトレンドラインを引くことができるのです。テクニカルトレーダーの中には更に、②の高値を超えることを条件とする人たちがいます。そうでなくとも、②から③にかけて値が 50%戻る（①から②の半分）ことを条件とする人たちもいます。

要は、谷の安値が確認されないまでも、それが谷の安値と信じられる証拠を持ちたいのです。」



・・・、どうですか？わかりました

でしょうか？

初心者の方には、念仏かお経か・・・、という感

じかもしれませんが・・・更に、

「ここまでは仮のトレンドラインであって、その実用性を確かめるためには、少なくと も

3 回以上、テストされなければなりません。つまり⑤でトレンドラインを割らないこと

（ブレイクしないこと）が必要です」

分かる人はわかると思うんですが、今回は、もっと簡単に考えていきましょう。

トレンドラインを引いていると、だんだん身に付いてくることかもしれません。

トレンドラインを引いたことがない方には難しいことです。

昔、1 から順番に 30 とか 50 とかの番号が振ってあって、その番号通りに線を引いていくと絵ができ上がる

というので遊んだ記憶があります。

星の絵ができたり、動物の絵ができたりするわけですが、

トレンドラインは 1 と 2 を結ぶだけで、30 も 50 もないので、昔のその遊びよりもはるかに簡単です。

「点と点を結べば線になり、それがトレンドライン」

ということです。

これがトレンドラインです。

トレンドラインって、これだけなんです。

簡単でしょう？

点と点を見つけて線を引くだけなんです。

その後は、その線が効力を無くせば消せばいい。または効力が無くなる時がトレンドラインブレイクでエントリー

というトレードタイミングにもなる。

これだけなんです。

重要なのは、トレンドラインは１と２を結んで３点目が効いていること。これがトレンド

ラインが効いているわかりやすい証拠です。

3 点目が効いていないトレンドラインは、トレンドラインが機能していないかもしれません。

（４）頂点と底と中指と

では、どこを点と判断するか？それさえわかればトレンドラインは引けます。

また、その点は主要な高値と主要な安値になるわけですが、主要な高値と主要な安値の判断は、相場分析において、かなり大切な部分になります。

なぜなら、

・主要な高値とは、

相場参加者の多く、もしくは、多くの資金を動かしている相場参加者が、そこが頂点と言っているポイント

・主要な安値は、

相場参加者の多く、もしくは、多くの資金を動かしている相場参加者が、そこが底と言っているポイント

だからです。

・・・、だから？、

という感じかもしれませんが、

山を登る時、多くの登山者が頂点を見て、頂点を目指して登っていきます。

また山を降りる時、

山の一番下を見て、そして目指して降りていきます。

相場の底や頂点は、相場の分岐点であり、注文を入れたら目指すべき理想のポイントになります。

実際には頂点や底を取ることはできませんが、どんな山でも休憩所は中腹とか登り始めて何合目とか、できるだけ無理の少ないところに休憩できるポイントがあります。

前述で、相場は山と谷を作っていると書きましたが、

人が一気に山の頂点まで駆け上がっていくことがなかなか難しいように、相場も一気に山の頂点まで駆け上がっていくことはなかなかありません。

そして、そのために必ず休憩ポイントが出てきます。

それは、相場が頂点まで駆け上がっていくのに、あまり無理がないポイントに、です。

これはまた、今後の「サポート・レジスタンス」や「FIB」の章で話しますが、無理のない休憩ポイントを見つけることが、トレンドトレーダーにとってチャンスになります。

より正しい相場分析をするためには、その起点となっている主要な高値と主要な安値を知ることが、大切になってくるわけです。

前置きが長くなりましたが、

主要な高値の見つけ方は、上昇してから下落に転じているところ、または、分岐点。

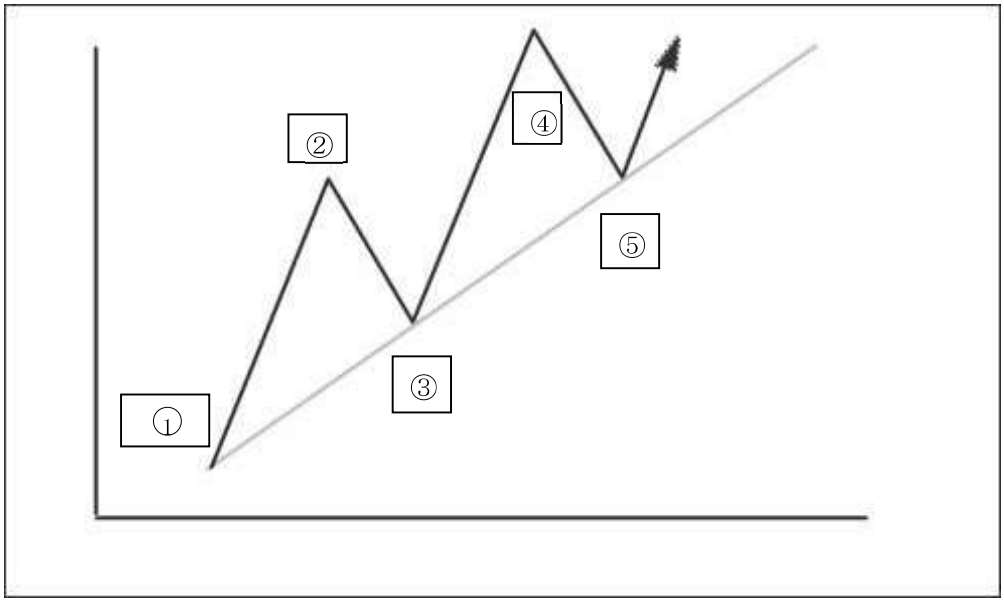
主要な安値の見つけ方が下落してから上昇に転じているところ、または、分岐点。

そして、中指となっているところとなります。

まず、上昇してから下落に転じているところと、下落してか

ら上昇に転じているところ、

この 2 つを見てみましょう。



安値①は過去の相場がないため、見ることができませんので、置いておきます。

高値②は、安値①から上昇してきて、安値③に向かって下落している起点となる高値です。なので、②は主要な高値と判断します。

安値③は、高値②から下落してきて、高値④に向かって上昇している起点となる安値です。

なので、同じように③は主要な安値と判断します。

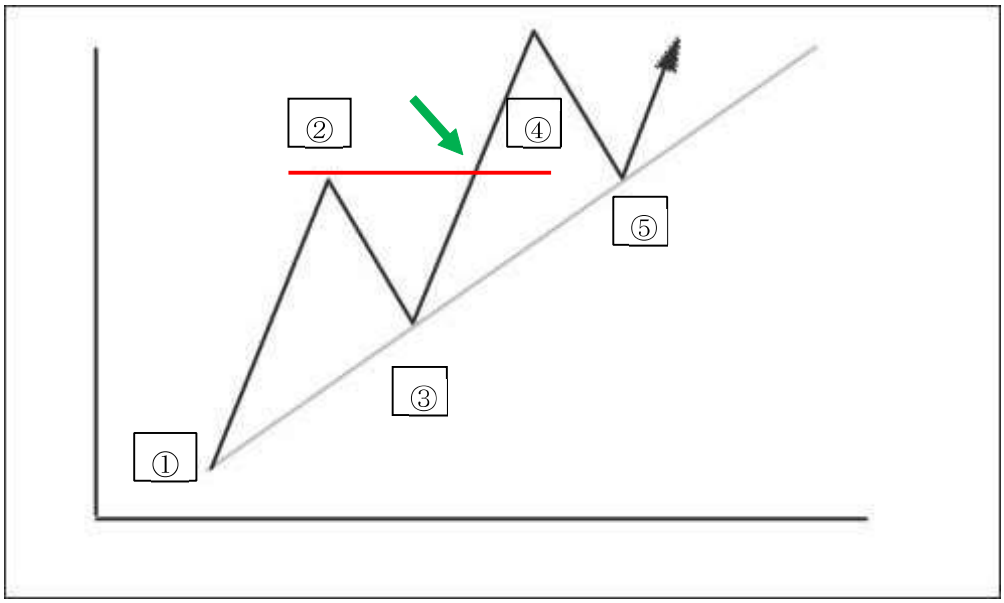
高値④は、安値③から上昇してきて、安値⑤に向かって下落している起点となる高値です。

なので、この④は主要な高値と判断します。

こうみると、結構、簡単です。

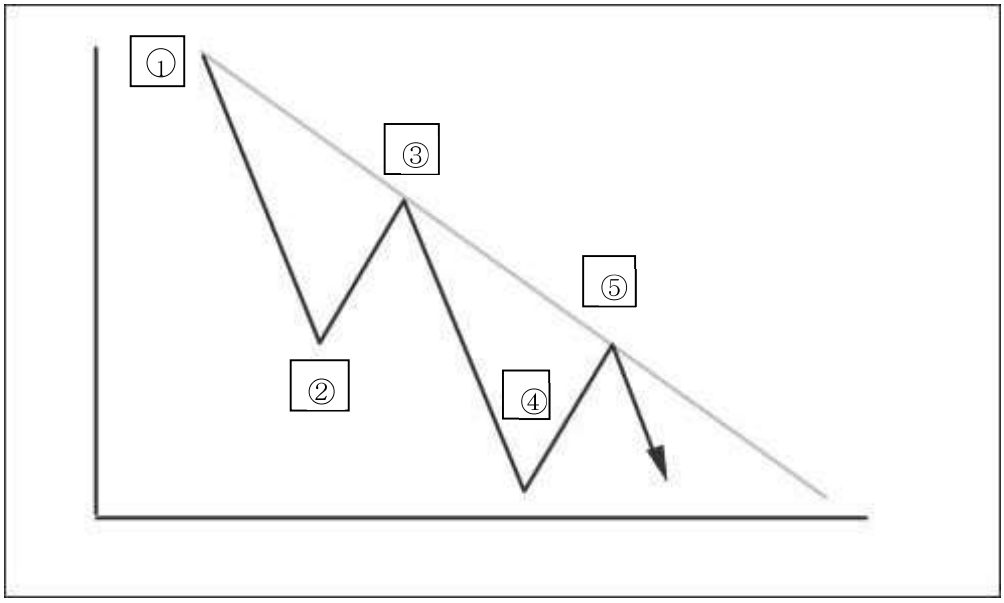
後付けでも、主要な高値と主要な安値を見つける作業は成り立ちますので、主要な安値が③だったと判断するには、高値②から横線を引いて、その高値②のラインを越えてからの判断でも大丈夫です。

下の図で書くと、緑の矢印のところです。



高値②を越えてから初めて安値③が完成したと判断できます。

上ではアップトレンドの図で見てみましたが、今度はダウントレンドの図で見てみましょう。



ダウントレンドだからと言って、判断方法が変わるわけでは決してありません。

アップトレンドの時と同じように、まず、高値①は過去の相場がないため、見ることができませんので、置いておきます。

安値②は、高値①から下落してきて、高値③に向かって上昇している起点となる安値です。

なので、②は主要な安値と判断します。

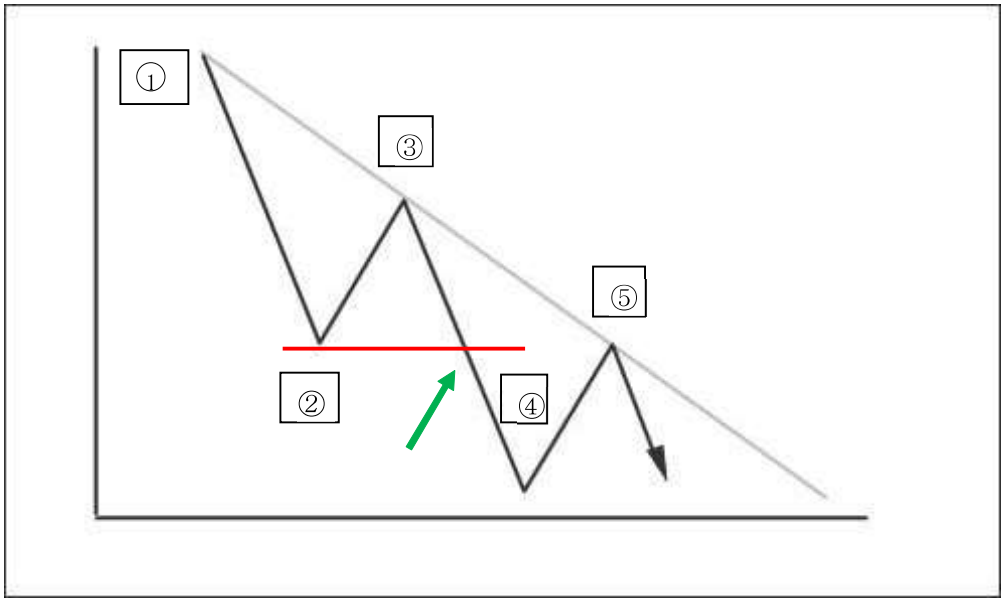
高値③は、安値②から上昇してきて、安値④に向かって下落している起点となる高値です。

なので、同じように③は主要な高値と判断します。安値④は、高値③から下落してきて、高値⑤に向かって上昇している起点となる安値です。

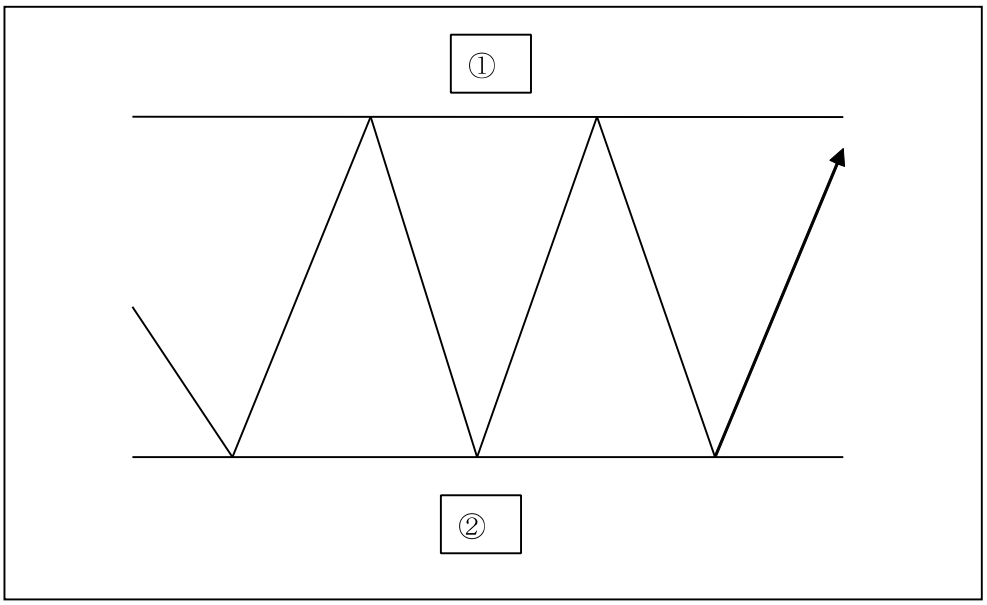
なので、この④は主要な安値と判断します。

そして、同じように後付けで、主要な高値が③だったと判断するには、安値②から横線を引いて、その安値

②のラインを越えてからの判断でも大丈夫です。



では次はレンジ相場を見てみましょう。



横ばいの中でも高値と安値がもちろんあり、そこをそれぞれ主要な高値、主要な安値と見て判断することはできますが、

まずは、アップトレンドの時にやった後付け作業の、主要な安値が③だったと判断するには、高値②から横線を引いて、その高値②のラインを越えてからの判断、

そしてダウントレンドの時にやった後付け作業の、主要な高値が③だったと判断するには、安値②から横線を引いて、その安値②のラインを越えてからの判断、

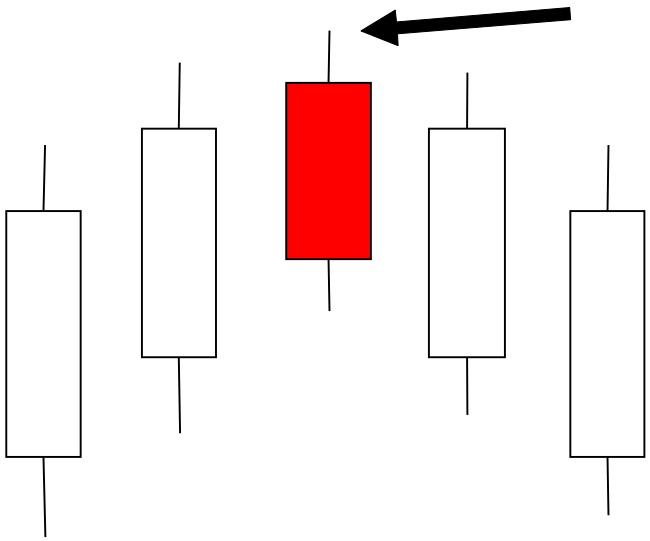
このどちらの後付け作業もできません。

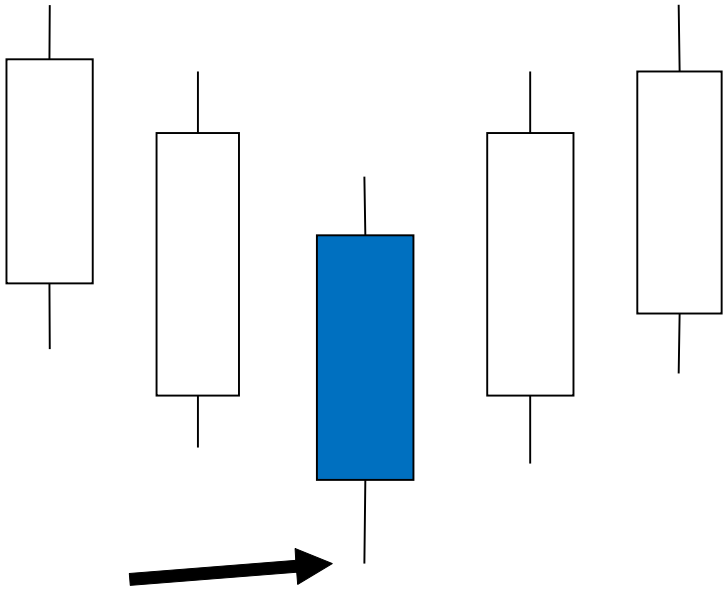
レンジ相場では、高値①、安値②、どちらも越えることができていないので、トレンドがない状態であり、トレンドトレーダーはトレードすべきではないと判断できます。

後付け作業は、これから相場を始める人でも簡単にできますし、根拠がはっきりしやすく、いい分析ができるものです。では、次は中指についてお話します。

これも相場の起点となるところを見つけるやり方で、アメリカの投資教育機関で学んできた方法ですが、

手の平を広げてみてください。





手のひらを中指を上にして広げると上の図のように、

手のひらを中指を下にして広げると下の図のように、

それぞれなると思います。

そして、中指の位置は上の方の図だと赤色のローソク足、下の方の図だと青色のローソク足になります。

・高値を形成するところでは、

中指となっている真ん中のローソク足から、左右に 2 本ずつ低いローソク足ができていること

・安値を形成するところでは、

中指となっている真ん中のローソク足から、左右に 2 本ずつ高いローソク足ができていること

が条件です。

左右に 2 本ずつあり、中指より短ければ、

人差し指に当たるローソク足より親指に当たるローソク足の方が長かったり、薬指に当たるローソク足より小指に当たるローソク足の方が長くても構いません。

では、実際のチャートで主要な高値、安値、そして中指となっているところを見てみましょう。

主要な高値に黒矢印、

主要な安値に白矢印、

を置きました。

上で書きましたが、

主要な高値は、上昇してから下落に転じている中指、

主要な安値は、下落してから上昇に転じている中指、

ということで表現しました。

黒矢印のところでは明らかに、上昇してから下落に転じており、一番高いローソク足を中指の部分として、左右に 2 本ずつ低いローソク足ができています。

また、白矢印のところでは、これも明らかに、下落してから上昇に転じており、一番低いローソク足を中指の部分として、左右に 2 本ずつ高いローソク足ができています。

このように、主要な高値と安値を判断して、ダウ理論でトレンドを判断したり、その高値、安値のロ

ーソク足を起点としてトレンドラインを引いたりするわけです。

（５）実際のチャートで見たトレンド分析

では、実際のチャートで見てみましょう。

まずは主要な高値と主要な安値を見つけます。

どこにあるでしょうか？

私は上の図の白矢印のように取りました。

主要と思われるところを高値、安値、交互に取っています。

それを元に分析すると、ダウ理論では高値・安値ともに右肩下がりなので、ダウントレンドと見ることができます。

このチャートに、ダウ理論に沿ってトレンドラインを引いてみます。

白と黒の 2 本トレンドラインを引きましたが、

一番左のポイントを①として、次の高値の②のポイントと 2 点を取って白のトレンドラインを引きました。

次に②の高値と③の高値の 2 点を取って、もう 1 つ黒のトレンドラインを引いています。

トレンドが続いていると、だんだん角度が急になってくることはよくありますが、

2 つ目に引いた黒のトレンドラインに押さえられるように相場が動いています。

ちなみに、この後の相場がどうなったのか見てみましょう。

黒と白のトレンドラインを上に抜けた後、ダウントレンドが終わっています。

トレンドラインを抜けたという根拠、ダウ理論で高値が切り上がったという根拠、

の 2 つの根拠があるからです。

そのポイントを見てみましょう。

緑の縦線のところで、はっきりとトレンドラインを抜けてきています。

トレンドラインを抜けたと判断する方法はいろいろありますが、

・終値がトレンドラインを抜けた時

・ローソク足のヒゲがトレンドラインを抜けた時

・始値、高値、安値、終値すべてがトレンドラインを抜けた時

・一度トレンドラインによってサポート・レジスタンスされた高値、または安値を抜けた時

などがあります。

どんなトレードをするかによって判断基準は変わりますが、

「終値がトレンドラインを抜けた時」か「一度トレンドラインによってサポート・レジスタンスされた高値、または安値を抜けた時」に、そのトレンドラインは無効になったと考えるのが、よく使われる方法です。

そう見た時に、

この相場では、相場の頭を押さえるために作用していた黒のトレンドラインを終値が上に抜けたので、トレンドが変わった可能性があると判断できます。

黒の矢印のある高値は、前回の白の矢印のある高値よりも切り上がっているので、ダウ理論でもダウントレンドが終わっている可能性があると判断できます。このように相場を分析して、今エントリーするにはどの方向に向かってトレードしたらいいか・・・、

などを考えていきます。

トレンド判断は、高値、安値がわかりやすい相場がわかりやすく良い判断ができます。

トレンドがわからないとトレードする方向がわからないということなので、トレードすべき相場ではないということになります。

例えば、

こんな相場はどうでしょうか？

高値、安値がそれぞれ前の高値、安値に対して切り上がったり下がったりしていて、判断が難しいと思います。

ほぼ横方向に向かってしか動いていないので、レンジ相場と判断できます。

こんな相場になっていたら、はっきり動いて、方向性が出るまで待つか、別のわかりやすい通貨ペアを探すのが良策です。

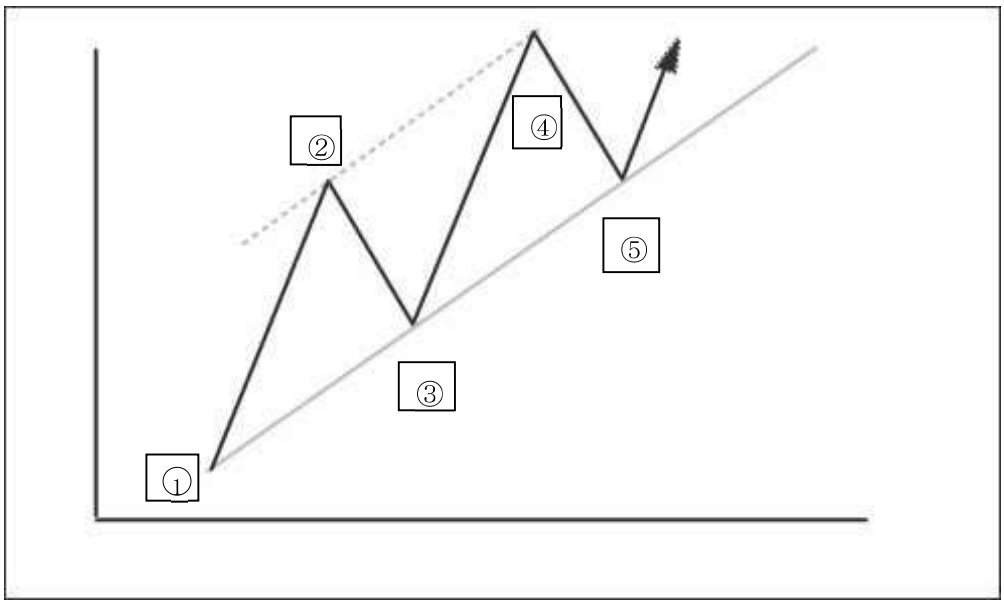
（６）チャネルライン

トレンドラインの発展形になりますが、チャネルラインというものも紹介しておきます。

チャネルラインの引き方は簡単です。

以下の図でアップトレンドの場合、安値①と③を結びトレンドラインを引きます。

そして最初の高値②からトレンドラインと平行した線を引きます。



その後、高値④がチャネルラインに当たって上限になっていたら、チャネルラインの存在が見えてきます。

また価格が⑤まで戻ってチャネルラインに支えられたら、チャネルラインの存在が確実になってきます。

そうすると上下の幅が大体見えてくるので、チャネルラインの下線に支えられた時に買い、チャネルラインの上限に押さえられた時に売り・・・、

という短期売買の目安も付いてきます。

チャネルライン内での上下が長く続けば続くほど、相場の動きに無理がなく、より安定的なトレンドと言えます。

実際のチャートに線を引いてみました。

安値①と③を起点にトレンドラインを引き、それと平行したものを最初の高値②から引きました。

いつも、という訳ではありませんが、この時の相場では、きれいにチャネルラインの中に収まって動いています。

そして、そのチャネルラインをブレイクしてきた時、チャネルラインは作用しなくなって、相場が下方向に動いています。

（７）トレンドのゾーンについて

勝っているトレーダーには特殊なルールがあったり、必ずしも難しいことをして勝っているというわけではありません。

凄くシンプルに、

高値を越えたらエントリー、安値を抜けたらエントリーという形でトレードをしている方はかなり多くいます。

ではなぜ、負けているトレーダーは高値を越えて買ったら天井を掴んだり、安値を抜けて売ったら底を掴むのに、勝っているトレーダーは同じやり方でしっかり勝ち続けることが出来るのか？

勝っているトレーダーが、トレードルールよりもまず優先しているポイントについて触れておきます。

トレンドには大きく分けて ３ つ

トレンド初期、トレンド中期、トレンド後期

と呼んでいる 3 つのゾーンがあると考えています。

トレンド初期は、これからトレンドが始まるかもしれないゾーン

トレンド中期は、明らかにトレンドが起こっているゾーン

トレンド後期は、トレンドが終わりに来ているかもしれないゾーン簡単に言うと、

トレンド初期で高値越えエントリーをしたら相場は伸びていきますが、トレンド後期で高値越えエントリーをしたら相場は反転します。

これらを意識的に、または無意識的に読み取って勝っているトレーダーはトレードをしています。

ではどのような相場が、トレンド初期、中期、後期になるのでしょうか。

（８）、トレンド初期、中期、後期について

まずトレンド初期についてですが、トレンド初期は前述したとおり、これからトレンドが始まるかもしれないゾーンのことを言います。

反転の可能性がある相場といった方がわかりやすいかもしれません。

例えば上の図で言えば、赤丸で囲った部分をトレンド初期のゾーンと言います。

この初期のゾーンを抜けたらトレンドが出来始めるところで、実際に私も赤丸のトレンド初期のゾーンを抜けたところからトレードをしました。

結果から見れば初期のゾーンはわかりますが、実際にどうやってそれを察知していくかが重要なポイントです。

それについては、また後で触れていきます。

次にトレンド中期についてですが、明らかにトレンドが起こっているゾーンのことを言います。

トレンド相場と認識していただいてもいいと思います。

上の図で言えば、黄色丸で囲った部分になります。

先ほどのトレンド初期のゾーンを抜けて明らかに相場が動いているゾーンのことを言います。

こういう相場ではすでにポジションを持っていて、あとはどうなったら決済するかを考えるところになります。

最後にトレンド後期についてですが、トレンドが終わりに来ているかもしれないゾーンを言います。

トレンド中期と同じく、トレンド相場という認識でも間違いではありません。

青丸のような相場のポイントを言います。

トレンド後期の判断はかなり難しく、これが正確にわかればどこで決済したらいいかわかるので、必ず負けません。

なので、このポイントを毎回正確につかむトレーダーはいないですし、ここについてはわからなくても構いませんが、トレンドが終わりに来ている可能性については知っておく必要があります。後でその特徴について書きたいと思います。

ここまで書いた通り、確かに

トレンドの始まり、トレンドが起こっている、トレンドが終
わりに来ている、

という相場があり、

勝っているトレーダーはそれをより正確に認識できているので、トレードで勝っています。優秀なトレーダーは相場分析力でそれをカバーしている方が多いと思いますが、相場分析力となると経験も必要ですし、現在負けているトレーダーからすれば、やはりハードルが上がります。

相場分析力がなくてもいいとまでは言いませんが、まずはそこまでの力がなくても、トレードで勝つための考え方。

今まで多くの方にお伝えしてきた、負けているトレーダーが急に勝てるトレーダーに変貌したその秘密の考え方について触れていきたいと思います。

（９）、エントリーを考えるのはトレンド初期のゾーンから

有利にトレードを進めるためには、トレンド初期のゾーンからエントリーを考えていくのが有効です。

相場が反転してこれからトレンドが起こるかもしれないというところ

なので、利益を多く見込めますし、

目標値にも到達しやすいところです。

いかにこのトレンド初期のゾーンを察知するか。

それが勝つトレードをするための重要ポイントです。

これを察知するためには、今の相場が天井、または底になっている可能性の動きやパターンを知っておくこと

が大事で、

基本項目として

・ダウ理論

・戻りのない相場

・ 23.6%

の 3 点を最低限知っておくことが必要です。

更に精度を上げるためには、

・サポート、レジスタンス

が天底の可能性がある動きのポイントにあるとかなり有効です。

（１０）、戻りのない相場とは

戻りのない相場という言葉は独自の表現になります。

勢いよく上がったり、勢いよく下がったりしている相場のことを言いますが、

それだけだと感覚的でわかりづらいと思いますので、戻りのない相場とはどう

いう相場なのか定義を書いていきます。

フィボナッチリトレースメント（以下 FIB）を引いた時に 38.2%以上戻らずに、アップトレンド

時は高値更新、ダウントレンド時は安値更新してしまう相場のことを戻りのない相場と呼んでい

ます。

チャートで実際に見てみたいと思います。

上の図は戻りのある相場で

FIB を引いて 61.8%のラインまで戻ってから再度上昇しています。

画像ではわかりづらいですが、ずっと下落してきた相場が FIB を引いている

安値を起点に、ダウントレンドからアップトレンドへトレンド転換しています。

トレンド転換時のこの図では、まだ下落が続くかもしれないので、売り手が

多く、深く戻りが発生しています。

ここに限らず、ほとんどのトレンド転換時の相場では、戻りが深く

発生することが多いです。

下のチャート図はその後の相場になります。

ちょっと見づらいかと思いますが、

黄色の FIB が先ほどの図で引いていた FIB で、

赤色の FIB が新しく引いた FIB になります。

赤色の FIB で引いた高値で一旦上昇が止まって、下がるかもしれないという状況にもなり

ましたが、結局高値更新しています。

38.2%まで戻らずに上昇する相場（または下落する相場）になると、

誰が見てもアップトレンドの相場になっているので、買い手が多くなり戻ることなく上昇します。

こういう戻りのない相場になってくると、天井が近いと考えておいて構いません。

負けるトレーダーはこのような、誰が見てもアップトレンドの相場の時に買って天井圏を掴まされますが、

勝っているトレーダーは持っているポジションの決済や、売りを狙う相場を待つようになります。

相場の世界で勝っているトレーダーが少ないということは、誰が見てもトレンドが出来ているところからエントリーしても、勝ち続けることは出来ない

ということにもなります。

（１１）、FIB23.6%について

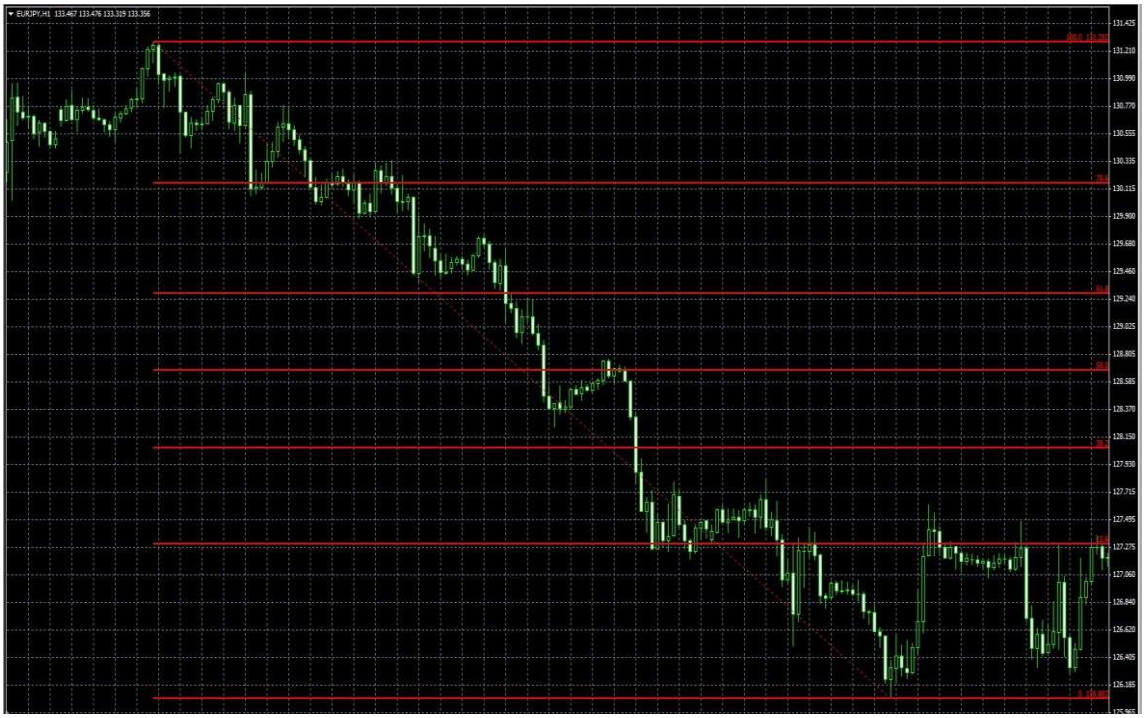
あまり使っている人はいないかもしれませんが、

23.6%のラインはサポート・レジスタンスとして機能することがよくあります。

トレンドが反転していれば 38.2%までの戻りが発生することはかなり多いので、その手前の 23.6%は反転時の小休憩として相場の動きが一旦止まり、その後、動き出して 38.2%以降のサポート・レジスタンスに向かう動きをします。

相場反転時の高値安値から 23.6%は、天井圏、底値圏を作りやすいところですので、トレンド初期のゾーンを作りやすいところと言えます。

実際にチャートで見てみましょう。



トレンドが変わっている起点の高値から、トレンドが変わるかもしれない安値に向かって FIB を引いています。

下から 2 番目の赤線が FIB23.6 のラインになりますが、その辺りで一旦相場の上昇が止まり、

（白丸の部分）安値更新はしていませんが下落方向に動いています。

このまま安値更新をしなければ、

FIB を引いた安値から白丸で囲った高値までが底値圏になる可能性のところで、これを上に越えてくるとトレンド転換となって上昇する可能性が出てきます。

下のチャート図がその後の流れです。

しばしば天井圏、底値圏ではトレンドラインが効いてくることがありますので、トレンドラインも引ける相場だと

天井圏、底値圏がわかりやすいですが、白丸の高値を越えた後は上昇しています。

他にも例を表示します。

高値から下落した後、

23.6 のライン辺りがサポートとなって一旦上昇の戻りを作っていますが、その後安値を下回って下落しています。

23.6 ライン辺りで一旦レジスタンスとなり下落の戻りを作って、その後高値を越えてから上昇しています。

先ほどのチャートの底値圏を拡大したものですが、安値から 23.6 辺りがサポートとなっていた高値に向かって FIB を引いています。

その後 38.2 辺りまで下落の戻りを作っています。

（黄色丸の安値）

ここで 38.2 以上の戻りがあることを条件として、

23.6 のラインが効いている

と見ると有効で、その後しっかりと上昇しています。

23.6 がサポート・レジスタンスとして作用しないことも当然ありますので、そのま ま

38.2 まで行ってしまったら、相場分析力がない限りは、誰が見てもトレンドが出来ている相場になりますの

で、トレードは避けた方が無難です。

（１２）、トレンド初期の判断まとめ

勝っているトレーダーがトレードルールよりもまず確認しているのが、これからトレンドが続くかどうか。

トレンドが続きやすいところでエントリーすれば、利益も伸ばしやすく、勝率も高くなりやすいトレードが出来ます。

つまりは、エントリーも考えつつ、良い決済が出来そうなポイントを探しているということですが、

それに適したポイントの一つが、トレンドの転換を察知してトレードすること。

トレンド転換時のゾーンをトレンド初期と呼んでいますが、そのトレンド初期をどう見れば判断できるか。これについてまとめておきたいと思います。

ポイント 1、戻りのない相場になっているかどうか

わかりやすくトレンドが出来ていると、大体戻りのない相場になっていることが多いです。

そうなっていると誰が見てもトレンドが出来ている相場で、そこからエントリーするとほとんどの場合が遅く、相場が止まったり反転する可能性があります。

天井、または底が近いので、その傾向が出るまで待ちます。

ポイント 2、

高値、または安値の切り下げ、切り上げの確認

アップトレンドが続いていたら、高値安値が切り上げていますが、

高値が切り上げずに切り下げると天井圏の可能性があります。

反対にダウントレンドが続いていたら、高値安値が切り下げていますが、安値が切り下げずに切り上げると底値圏の可能性があります。

（天井圏の高値、底値圏の安値辺りにサポート・レジスタンスがあると良い）ポイント 3、

23.6 ライン辺りまでの動きを見る

今まで続いたトレンドが弱まっていれば、今までのトレンドに対して FIB を引いて出る 23.6 ライン辺りまで相場は反転します。

そこでサポート・レジスタンスされれば、トレンド初期の完成です。

このような流れでトレンド初期を確認します。トレンド初期が出来ても、そのまま以前のトレンドが続いていく場合も多々ありますので、トレンド初期が出来て、そのゾーンを抜けてくることで初めてトレンドが出来ていきます。

それがトレンドフォローの狙い目になります。

以下、トレンド初期の確認方法の動画です。

https://youtu.be/0U7iF6upYv0

発行者　　株式会社チャートマスター

メールアドレス info@chart-ma.com

※お問い合わせは上記サポート用のメールアドレスまでご連絡をお願いいたします。

本メール内容の無断転載・引用・公開・配布等を一切禁止致します。

Copyright(c) ChartMaster All Rights Reserved.